

2026年度 町田市立南成瀬中学校 学校経営計画・学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

令和8年3月31日

学校教育目標	共生 自立 貢献	学校経営の重点	(1)確かな学力の定着 (2)心を育てる教育 (3)健やかな体の育成 (4)キャリア教育の充実・発展 (5)特別支援教育の充実 (6)生活指導の充実 (7)不登校対策 (8)コミュニティスクールの機能強化 (9)服務厳正の徹底 (10)教職員の心身の健康と力量形成
○目指す学校像………偏見、差別、いじめ、暴力がなく、優しく思いやりにあふれた学校(共生) 生徒一人一人が自ら歩みを進めていく力を養う学校(自立) 多くの人と喜びや達成感を共有し、よりよい社会を築いていく学校(貢献) ○目指す児童・生徒像………自他の生命を尊重し、多様な価値観を認められる生徒(共生) 自ら考え判断し、たくましく行動できる生徒(自立) 社会性を身に付け、周囲の人と協働できる生徒(貢献) ○目指す教師像………生徒の人権を尊重し、生徒に寄り添い、生徒の自己実現を支える教師(共生) 自身の指導力を伸ばすために、向上心をもつ研鑽を積み重ねる教師(自立) 豊かな人間性をもち、すべての教育活動で連携・協力できる教師(貢献)			

領域	教育プランに基づく経営目標	中期・短期経営目標	具体的方策	取組指標	平均	評価	成果指標	○%	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価 記入欄	評価	
社会に開かれた教育課程の実現	目指す学校及び子どもの姿を家庭や地域社会と共有・連携した教育課程を実施する。	積極的な情報発信により、保護者・地域から信頼される学校づくりを行う。	保護者・地域の方々が本校の教育への理解を深められるように、学校公開等を機会を設定して多くの方に学校の様子を参観していただく。	4 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年12回以上 3 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年9回以上 2 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年6回以上 1 保護者・地域の方々が教育活動を参観できる機会が年6回未満			A 学校評価保護者アンケート「ア」4「学校公開」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ア」4「学校公開」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ア」4「学校公開」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ア」4「学校公開」肯定的評価 60%未満							
			保護者・地域の方々が本校の教育活動をより身近に捉えられるように、学校・保護者間連絡システムや学校ホームページ等を活用し、学校の様子を積極的に情報発信する。	4 学校ホームページの更新が週3回以上 3 学校ホームページの更新が週2回以上 2 学校ホームページの更新が週1回以上 1 学校ホームページの更新が週1回未満				A 学校評価保護者アンケート「ア」3「情報発信」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ア」3「情報発信」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ア」3「情報発信」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ア」3「情報発信」肯定的評価 60%未満						
			学校運営協議会の助言・支援のもと地域学校協働活動を充実させ、学校と地域が協働して生徒を育成する環境を整える。	4 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」の実施が年30回以上 3 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」の実施が年25回以上 2 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」の実施が年20回以上 1 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」の実施が年20回未満				A 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」に参加した生徒が200名以上 B 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」に参加した生徒が150名以上 C 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」に参加した生徒が100名以上 D 放課後学習教室「まなびや」・「未来塾」に参加した生徒が100名未満						
教職員の心身の健康を守り、働き方の視点で業務改善を図る。	地域貢献活動を通して生徒の社会の構成員としての意識を高め、地域に主体的に参画して貢献しようとする態度を育成する。	各教職員が定時退勤日を設定し、勤務時間内の集中力を高めて業務効率の質的向上を図る。	4 定時退勤日を設定した教員の割合が90%以上 3 定時退勤日を設定した教員の割合が80%以上 2 定時退勤日を設定した教員の割合が70%以上 1 定時退勤日を設定した教員の割合が70%未満				A 月平均時間外在等時間が80時間以上の教員が年間を通じて0~1人 B 月平均時間外在等時間が80時間以上の教員が年間を通じて2~3人 C 月平均時間外在等時間が80時間以上の教員が年間を通じて4~5人 D 月平均時間外在等時間が80時間以上の教員が年間を通じて6人以上							
		教職員同士で相談しやすい雰囲気醸成し、助け合いや協力の精神をもって職務にあたるようにする。	4 ストレスチェックの受検率が90%以上 3 ストレスチェックの受検率が80%以上 2 ストレスチェックの受検率が70%以上 1 ストレスチェックの受検率が70%未満				A ストレスチェックの「健康リスク」総合の指数が75未満 B ストレスチェックの「健康リスク」総合の指数が80未満 C ストレスチェックの「健康リスク」総合の指数が85未満 D ストレスチェックの「健康リスク」総合の指数が85以上							
		学習課題やねらいの提示、振り返りとともに、「価値ある対話の共有」を授業場面で意図的に設定し、自ら学び、協働して課題を解決できる生徒の育成を図る。	4 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の9割以上 3 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の8割以上 2 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の7割以上 1 ねらいの提示、振り返りの設定が全授業の7割未満				A 学校評価保護者アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「イ」①「基礎基本」肯定的評価 60%未満							
子どもが主体的に学び、教師が導く授業改革を進め、主体的・対話的で深い学びを実現することで、基礎的・基本的な知識及び技能の確実な習得と思考力、判断力、表現力等とともに学び続ける力の育成を図る。	生徒の学習意欲を向上させ、確かな学習成果に結びつける。	少人数授業、学習者用デジタル教科書等を活用しながら、生徒の習熟度に応じた指導を通して英語力の向上を図る。	4 通常の英語の授業以外で英語に触れる学習機会が年12回以上 3 通常の英語の授業以外で英語に触れる学習機会が年9回以上 2 通常の英語の授業以外で英語に触れる学習機会が年6回以上 1 通常の英語の授業以外で英語に触れる学習機会が年6回未満				A 第3学年の生徒の英検3級取得率が60%以上 B 第3学年の生徒の英検3級取得率が50%以上 C 第3学年の生徒の英検3級取得率が40%以上 D 第3学年の生徒の英検3級取得率が40%未満							
		タブレット端末を活用し、探究的、対話的、協働的な学習による生徒の「課題発見力・解決力」や「情報活用能力」を育む。	4 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年150日以上 3 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年130日以上 2 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年110日以上 1 生徒一人一人のタブレット端末の使用が年110日未満				A 学校評価生徒アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 80%以上 B 学校評価生徒アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 70%以上 C 学校評価生徒アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 60%以上 D 学校評価生徒アンケート「イ」⑤「ICT」肯定的評価 60%未満							
		授業や学校行事等に地域人材を積極的に活用し、他者と協働して課題解決を図るための体験的・探究的な学習を充実させる。	4 地域人材を活用した授業の実施が各学級年9回以上 3 地域人材を活用した授業の実施が各学級年6回以上 2 地域人材を活用した授業の実施が各学級年3回以上 1 地域人材を活用した授業の実施が各学級年3回未満				A 学校評価保護者アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ア」①「地域人材」肯定的評価 60%未満							
豊かな心の涵養	多様性を尊重し、自分と他に他者を大切に意識・態度を育てる。	人権尊重の理念に基づいた指導を通して、生徒の規範意識や公共心を育てる。	4 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年5回以上 3 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年4回以上 2 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年3回以上 1 いじめ防止をテーマにした授業の実施が各学級年3回未満				A 学校評価保護者アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ウ」①「子どもの人権」肯定的評価 60%未満							
		日常的な指導を通して公共の場でのマナーを身に付けさせるとともに、道徳教育やセーフティ教室の機会に情報モラルについての意識を高めさせる。	4 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年5回以上 3 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年4回以上 2 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年3回以上 1 情報モラルをテーマにした授業の実施が各学級年3回未満				A 学校評価保護者アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ウ」⑤「ネットマナー」肯定的評価 60%未満							
		規範意識を身に付けさせることを通じて公共心を高める。また、生徒の成長を積極的に認め励ましていくことを通じて自尊心を高める。	4 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年5回以上 3 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年4回以上 2 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年3回以上 1 規範意識をテーマにした授業の実施が各学級年3回未満				A 学校評価保護者アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ウ」②「きまり」肯定的評価 60%未満							
健やかな体の育成	正しい生活習慣を身に付けさせ、丈夫な体とたくましい心を育てるとともに、自助・共助・公助の力を身に付ける安全指導・安全教育を充実する。	生徒主体の活動場を多く作ることに、学校行事で上級生が下級生に模範を示す機会を意図的に設け、望ましい人間関係の形成や集団の在り方を考えさせる。	4 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年5回以上 3 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年4回以上 2 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年3回以上 1 上級生が下級生に模範を示す特別活動等の実施が年3回未満				A 学校評価生徒アンケート「生徒主体の活動」肯定的評価 80%以上 B 学校評価生徒アンケート「生徒主体の活動」肯定的評価 70%以上 C 学校評価生徒アンケート「生徒主体の活動」肯定的評価 60%以上 D 学校評価生徒アンケート「生徒主体の活動」肯定的評価 60%未満							
		学校行事、屋外での外遊、部活動等、教育活動全体を通して運動に親しませる。特に体育祭に向けた取組の中で、集団で行う運動の楽しさを味わわせる。	4 運動に親しませる取組の実施が年15日以上 3 運動に親しませる取組の実施が年12日以上 2 運動に親しませる取組の実施が年9日以上 1 運動に親しませる取組の実施が年9日未満				A 学校評価保護者アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「エ」①「運動スポーツ」肯定的評価 60%未満							
		保健体育の授業を中心に体づくり運動を継続的にを行い、走る・投げる・跳ぶ力や柔軟性等をバランスよく身に付けさせる。	4 体育実技の授業における体づくり運動の実施が全授業の9割以上 3 体育実技の授業における体づくり運動の実施が全授業の8割以上 2 体育実技の授業における体づくり運動の実施が全授業の7割以上 1 体育実技の授業における体づくり運動の実施が全授業の7割未満				A 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」C以上 70%以上 B 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」C以上 60%以上 C 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」C以上 50%以上 D 全国体力・運動能力、運動習慣等調査「総合評価」C以上 50%未満							
その他		生徒に基本的な生活習慣を身に付けさせるとともに、安心・安全な学校生活に向けた指導を充実させる。	4 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年5回以上 3 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年4回以上 2 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年3回以上 1 基本的な生活習慣に関わる委員会等の取組が年3回未満				A 学校評価保護者アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ウ」③「あいさつ」肯定的評価 60%未満							
		臨場感のある避難訓練の実施が年5回以上	4 臨場感のある避難訓練の実施が年5回以上 3 臨場感のある避難訓練の実施が年4回以上 2 臨場感のある避難訓練の実施が年3回以上 1 臨場感のある避難訓練の実施が年3回未満				A 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%未満							
		臨場感のある避難訓練の実施が年3回以上	4 臨場感のある避難訓練の実施が年3回以上 3 臨場感のある避難訓練の実施が年3回未満				A 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 80%以上 B 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 70%以上 C 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%以上 D 学校評価保護者アンケート「ウ」④「安全意識」肯定的評価 60%未満							

取組指標の評価基準(結果数値からABCD評価へ)	成果指標評価基準	学校関係者評価の評価基準例
取組指標平均 3.5以上 ⇒ 評価A 取組指標平均 3以上3.5未満 ⇒ 評価B 取組指標平均 2以上3未満 ⇒ 評価C 取組指標平均 2未満 ⇒ 評価D	成果指標平均 80%以上 ⇒ 評価A 成果指標平均 70%以上 ⇒ 評価B 成果指標平均 55%以上 ⇒ 評価C 成果指標平均 55%未満 ⇒ 評価D	A ⇒ 取組・成果ともに十分評価できる B ⇒ 取組・成果ともに評価できるが、さらに改善したい C ⇒ 目標達成には至らないため、次年度の改善が必要 D ⇒ 重要な課題であるため、次年度、重点的に改善

※ 学校独自に設定する場合は、枠内を修正明記してください。

※ 学校からの十分な説明をもとに、学校運営協議会で成果と課題、改善点について協議する。